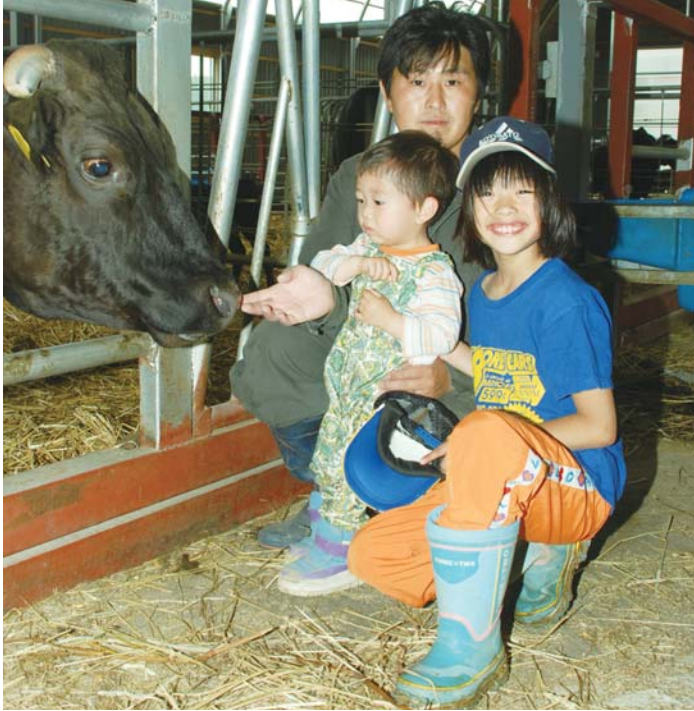


きよさと元気直送便



このコーナーでは、まちや地域の元気を生み出す様々な活動に取り組んでいる皆さんをシリーズでご紹介します。

ふるさとの味を探求

さわだ あつし
澤田農場 澤田篤史さん

「清里だからできる味の探求に挑戦したい」そう語るのは上斜里地区で主に畑作農業を営み、肉牛の生産と牛肉の委託加工販売を手掛けている澤田篤史さん（上斜里大和）。澤田さんの牛肉の販売は、町の商工会に相談をして精肉店を紹介してもらったことが始まりだったという。「自ら販売する訳にはいかなかったので、精肉店の一員として営業活動や配達も手伝っているんですよ」と澤田さん。最近では、自家産牛肉と地元野菜をたっぷり入れた「レトルトカレー」も試作中だ

という。澤田さんの飼育する牛は、ホルスタイン種などの乳牛と黒毛和種などの肉牛の掛け合わせて誕生した交雑種（F1）という品種。肉質を良くするために作られた品種で粗飼料の利用性が優れていることなどが主な特徴。澤田さんは牛の飼料も研究し、生育期の飼料を地元澱粉工場で製造されたポテトパルプサイレージという澱粉の副産物を取り入れている。「飼料にも工夫はじめて3頭ほど試食していますが、味への手応えが感じられるようになりました。これからもだんだん美味しくなっていくと思いますよ」と澤田さん。



▲現在約80頭の和牛を飼育



▶地場産澱粉の副産物ポテトパルプサイレージ。牛にとっては美味しく、畑の恵みを活かしたエコフィード

研究熱心な澤田さんは、昨年、町民海外派遣研修事業でフランスを視察。フランスの食・文化・風土に大きな影響を受けたという。「清里は、誕生から歴史の浅いまちです。千年前の景観の残るフランスのような歴史はありませんが、これから積み重ねること、守っていくことの大切さを知った上で歴史をスタートさせていけることをとても幸せに感じています。視野を広げて世界から学び、清里の美しい景観のもとで生産されるふるさとの味の探求に挑戦していきたいですね」と澤田さんはお話してくれた。

編集後記

▲今年は何の学校も晴天に恵まれた運動会。新栄小学校と江南小学校では、今年が最後の運動会となりましたが、元気いっぱい走り回る子どもたちの姿を見守り、最後の運動会を目一杯盛り上げようとする保護者や地域の方々の姿がとても印象的でした。

人のうごき（平成22年5月末日現在）

人口／計4,596人（+6）

男2,244人

女2,352人

世帯／ 1,883世帯

平成22年7月1日発行 NO. 623
発行／北海道清里町
〒099-4492
北海道斜里郡清里町羽衣町13番地

TEL 0152-25-2131
FAX 0152-25-3571
メール
kysomu@town.kiyosato.hokkaido.jp

HP
http://www.town.kiyosato.hokkaido.jp
携帯電話用サイト
http://www.town.kiyosato.hokkaido.jp/i/

